



豊山・謙誠山皇始人をつとめる日野製菓店の朝日 功さん

豊山祭りには誇りを持っています

「租税免除の特権が、豊臣時代から徳川時代へと引き継がれて来たことよって、長浜が経済発展してきたわけやし、豊山祭りも日本で指折りの祭りとして続いてきた。ええこっちゃん。

表参道では文化塾というのを開いてるんやけど、身近にいろんなものを見聞きしてもろて、子どものころあこがれたような「文化人」を育てたいと思ってます」



増田長盛屋敷跡に店がある「アスカット」の宮部 太郎さん

長盛のことをよく聞かれます

「長谷川橋から万興さんまでの一角が屋敷跡やつたと聞いてますが、店の表の標識を見て、いろいろお尋ねになる方もありますね。京都三条大橋の欄干には、この橋は増田長盛がつくった」ということが刻まれているんですよ。

一寒村だった長浜に築城し、租税をなくして町の発展に尽くした太閤さんには、尊敬の念を抱いていますよ」



織田信長と同じ姓の織田 栄子さん

親しみやすい感じかな

「名字を説明するときは、やっぱり織田信長の織田ですっていうけど、豊臣秀吉のことは普段の生活に関係ないし、ほとんど考えたことないわ。でも、秀吉、信長、家康の三人のなかでは、太閤さんって、一番親しみやすい感じはするわね」



大阪屋天守閣の学芸員 北川 央さん

大阪人のシンボルですね

「研究者として客観的に見ないといけないんですが、大阪生まれの大阪育ちですからね、秀吉さんが大好きなんですわ。秀吉は自分で自分のプロデュースができるし、自分のPRがうまいでしょ。いまの吉本新喜劇と通じるところがある。東京に対抗できる大阪人のシンボル、大阪人のルーツですよ」



秀吉の子秀勝のお墓がある妙法寺の児玉 環さん

ひでかつあんに親しみを

「このごろ、秀勝のお墓にお参りになる方や取材の方が多いんですよ。私はここで生まれ育ちましたから、小さいときから、このお墓のことを「ひでかつあん」って呼んで親しみを感じていました。秀吉さんは、後から養子に迎えた子らにも秀勝という名前を付けています。天逝した秀勝さんをよほど大事にされたんでしょうね。うちの息子の名前は、

秀勝さんの秀の字をもらいました」



秀勝の一字をもらって命名された妙法寺住職の児玉 秀樹さん

観光寺院としてだけでなく

「NHKの大河ドラマが始まると、観光客も増えるでしょうね。秀勝さんのお墓にもお参りしていただければと思います。今私は、単なる観光の寺というだけでなく、本来の寺としてのあり方を考えているんですよ。檀家制度によって形骸化された仏教を、もとの姿に戻したいという運動に、秀勝ゆかりの寺が関わっているというのも、何かの縁でよろしいでしょう」



番場の歴史を知り明日を考える会の米原町番場 泉 峰一さん

秀吉と縁のある鎌刈城

「私たちの会では、米原町番場の山城、鎌刈城をテーマに研究しています。鎌刈城は、戦路上重要な江南・江北の境目の城として、幾度となく戦いの渦に巻き込まれました。元亀元年（一五七〇）、木下藤吉郎は竹

太閤さん わたしの太

にゆかりのある人、ありそうな人、「太閤さんのこと、どう思いますか」と尋ねてみました。

長浜で初めて城主となった太閤秀吉。町をつくり、祭りの礎を与え、鮎寿司を好んだという。太閤さん

夜は気楽な居酒屋ですから、また寄ってね」



藤ヶ岳のふもとに料理旅館を営む藤吉屋源四の林 源栄さん

人の心をうまくつかんだ武将

「豊臣秀吉は戦術・戦略に長けた武将だ。あわせて人心の掌握にもすばらしさを発揮している。大垣から木之本まで一夜で帰った大返しでは、沿道の農民たちに協力を仰ぎ、水や食べ物を用意させ走り抜いた。賤ヶ岳の戦いでは、裏切りの心を見せた部下を叱らずに、次の紀州攻めで大役につかせ、信頼感をうえつけた。お客様に喜んでいただいて成り立つのが、子どもの旅館業。何を望んでおられるのか、そのために何をすべきか。まさに戦いの日々です」



豊公もなかを営む丸善屋の奥さん

出世にあやかりたいと命名

「豊公もなか」という名前は、店を始めた二十年ほど前に、どんどん出世していった秀吉さんにあやからうと



豊臣秀吉を祀る豊国神社宮司の尾崎 忠磨さん

敬い慕うべきお方

「太閤さんは、戦国時代の武将としては大したお方ですね。毎日お勤めさせてもろてる者としては、尊敬以上の気持ちを持っています。徳川時代も、えびすさんの裏ですつとお祀りしてきました。今も、加藤清正公の像、竹中半兵衛の句碑に見守られておられるようですよ」



豊山祭りが奉納される長浜八幡宮権禰頭の森田 和彦さん

奉納品が残らず、とても残念

「八幡神社というのは弓矢の神さまなので、多くの武将が参拝しています。秀吉さんは、ここが兵火で焼かれてしまった後を復興したり、社領を寄贈したりしてくれた人です。戦



全日本愛蔵会会長の吉川 太逸さん

似たもの同士の親しみを

前まで、秀吉さんや浅井長政たちから奉納された刀などがあつたんですが、大戦のときに供出してしまつて、今は記録しか残っていません。とても残念なことです。八幡宮は、六びょうたん巡りの一つに入っているんですが、このごろ若い人の姿も増えてきましたよ」

「太閤さんの馬印の千成瓢箪は、後から講師によってつくられたもので、稲葉山城を攻めたときに、お酒を入れていたひょうたんを逆さにさして合図を送ったのが最初だそうですよ。太閤さんは、口の曲がったひょうたんを好んだそうです。どうしてかっていうと、お酒が飲みやすいでしょ。私も太閤さんも、申年生まれで、お酒好き。太閤さんが天下取りで日本一になったように、私はアメリカンフットボールの社会人チーム『サンスターファイニーズ』で日本一をめざしています。長浜ドームで行うひょうたんボウルのトロフィーなどはみんなひょうたん製なんですよ」



藤吉屋源司の田中 信枝さん

長浜ではなじみの深い名前

「店の名前？ 藤吉郎のように出世できるようにと願ってつけたんですよ。地元のみなさんにかわいがっていただきたいと思います。名前負けしないようにがんばらなくちゃね。」

長浜の町衆が 秀吉さんを好きになわけ 知ってる？

秀吉がびわ湖岸の長浜に城を築き、町をつくった
という事は、新しい時代への幕開けだった。

長浜城の築城は

近世への幕開け

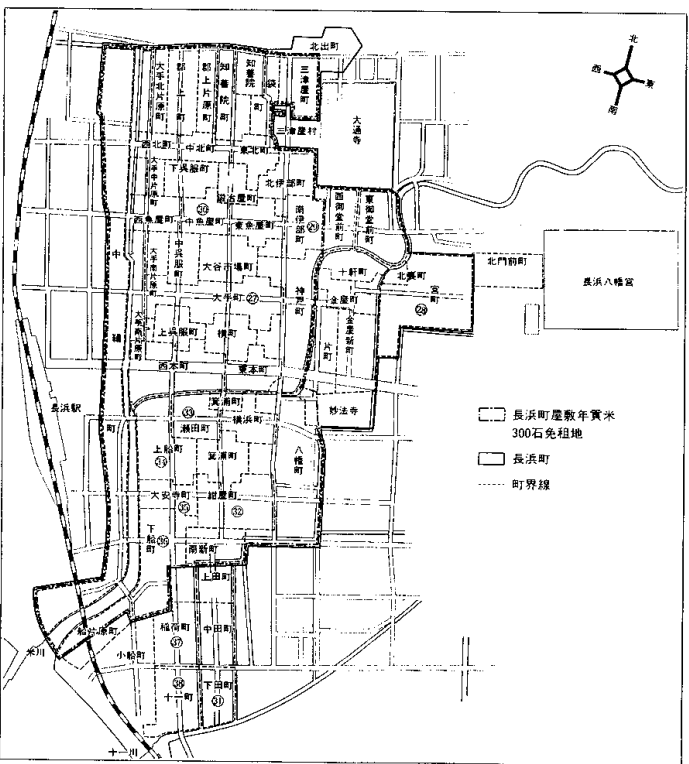
秀吉が、浅井長政が持っていた湖北三郡を信長からもらうのは、天正元年（一五七二）、二十七歳のとき。いちばん働き盛りのころである。このとき、木下藤吉郎秀吉から羽柴秀

吉に名前を変えている。初めての城持ち大名になって、出世街道まっしぐら、ハッスルしていたころだ。小谷から城を移して、長浜に城を造り出すのは翌年の春からである。湖北は、東海や北陸方面から京都へ上るとき、必ず通らなければならぬ。京都や安土を守る要の地だ。信

長は、秀吉が長浜城を完成した直後、



「長浜城外濠」を示す石碑▼



□ 長浜町屋敷年貢米
300石免租地
□ 長浜町
--- 町界線

「旧長浜町町域図」(長浜城歴史博物館蔵)
「長浜町歴史館の世界より」

旧長浜町町域図(○囲の番号は、図版番号と一致する)

天正四年（一五七六）に安土城を築いている。長浜城は、その防波堤の役割を担ったわけだ。

それまでの城は、砦や物見台としての意味が強かったから、高い山の上に築くのが一般的だった。浅井長政の小谷城もそうだ。秀吉が城の価値を同様に考えたなら、横山に城を置いたかもしれない。標高三百メートルあまりの横山城跡に登ってみると一目瞭然（本誌30ページ参照）。中山道、北国脇往還、北国街道がきっちり通せる。しかも、軍事防衛の面からもふさわしい。

秀吉がびわ湖岸の長浜に城を置き、町をつくったということは、それまでの山城と町の時代から、近世という新しい時代への幕開けを象徴する出来事だった。

年貢・諸役免除で

長浜の町民優遇

まず軍事面からいえば、長浜は古守防衛の基地ではなく、西から東から大軍を率いて帰ってくる駐屯基地だった。だから山のうえよりも平地のほうが行動しやすくて楽なのだ。領国経営の面からみても、平城のほうが有利だ。町をつくって商工業

とか、盗まれた物を知らずに買ってもし罪にしないとか、とにかく城下町に住んでいると、なにかと優遇されたのである。

長浜の町は

四つのステップで造成

信長や秀吉が、なぜそんなに城下町に住むことを奨励したかということ、領国の経済を活性化させること、自分たちに従順でない町を衰退させるためだった。商人が大きな力を持っていた堺や桑名などの自治都市や、真宗寺院の境内にできた寺内町などは、目のうへのタンコブみたいな町だから、その力を自分の城下に取り込みたかった、というわけだ。

本誌「湖北史話」を担当している一人、長浜城歴史博物館の森岡学芸員によると、長浜の町の造成は、だいたい四つのステップに分かれるという。

長浜が今浜といわれた時代から元々あった町は、宮町（長浜八幡宮の周辺）や八幡町（片町の飲み屋街の南にある神明神社あたり）、瀬田町（八幡町の西あたり）など。

お城の造成と同時に造られた第一期の町は、大手町や西本町、東本町、

を發展させ、周辺の農業生産力を高めようとするれば、山のうえでエラソニーにしてるより、町の近くで町民にああせい、こうせいと指図するほうが効き目がある。

信長が安土の町民に出した十三か条の掟が残っている。秀吉は、なんせ猿といわれたくらいだから、おもしろいと思ったことはほとんど真似をした。戦後高度成長を成し遂げた日本人の元祖みたいな人だ。長浜の町にも、似たような掟を出しただろう。初めての城持ち大名になって、都市政策にもリキが入っていたに違いない。

安土の町民に出した掟がどんな内容かという点、代表的なのが楽市楽座。つまり、座による独占を禁止して、役銭をかけるのも免除した。自由に商売ができるようにしたわけだ。普請や伝馬の役も、基本的に免除した。城をつくったりするときに、人足に駆りだされることがなかったのだ。諸役免除は、武士や職人に限りなく適用された。

こんなものもある。金や物の貸借関係の破棄は、城下ではいっさい通用させない。つまり、町人の取引や金融関係を保護したのだ。ほかにも、罪人を知らずに泊めても罪にしない

魚屋町（いまの祝町）など。これは、長浜城から見れば縦に伸びる通りばかりで、縦町と言われる。

第一期に造られたのは、大谷市場町（大手町と祝町の間）や伊部町、神戸町、箕浦町、呉服町など。小谷の城下や近江町の顔戸（神戸）、箕浦などから移住してきた人たちの町だ。これらの南北の通りは、縦町に対して横町と言われる。第二期までの五年間ほどで、現在の中心商店街にあたる町がほぼ完成したわけだ。

第三期は、郡上町、郡上片原町、知善院町など、長浜町の北にある南北の通りで、小谷から移住してきた人たちの町だ。そして第四期は、江戸時代になってから。慶長十一年（一六〇六）、大通寺の建立と同時に御堂前町ができていた。これらのエリアが「町屋敷年貢三百石免租地」になった町である。

秀吉と町衆の仲を

とりもったおね

ところが、ここで都市と農村の問題が発生してくる。戦にかかると莫大な出費は、農民から年貢を取ることでもかなわなければならぬ。だから、農村は年貢が重くなる。一方、